

令和3年度 学校評価書

常葉大学附属とこは幼稚園

園長 池田 美穂

1 経営の重点にかかわること

学校教育目標 心豊かでたくましい子

重点目標 自ら周りの環境に関わろうとする子

学年	評価項目（各学年の指導・取組の重点等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
0 歳 児	<p>○生活リズムを大切にし、安心感の中で過ごす</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な保育教諭に思いや欲求を受け止めてもらいながら、愛着関係を築く。 安心安全な環境の中で、伸び伸びと過ごす。 身の回りの事に興味関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して過ごせるように、個々の月齢や生活経験に合わせて、丁寧にかかわった。またクラスの職員全員で日々連携を密にし、援助してきた事で、どの子も安心安定した園生活が送れるようになってきた。 温かく見守られた中で、好きな玩具や遊具を見つけ、伸び伸びと遊ぶ事ができた。 個々の発達やその日の機嫌に合わせて、少しずつトイレトレーニング等を行ってきた。楽しく喜んで行う姿が見られる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 随時入園してくる子ども達が安心安全に伸び伸びと過ごせるよう職員が配慮している。 クラスの職員全員で子ども達の成長を喜び、丁寧にかかわることで子ども達が楽しく日々の生活を過ごせている。 	A
1 歳 児	<p>○自分の好きな遊びを見つけ、その遊びを繰り返し楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心安全な環境の中で、伸び伸びと遊ぶ。 生活の中で、見る、触れる、真似る等の経験をし、人や物への関心を広げる。 身の回りの事に興味を持ち、少しずつ自分でやってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して園生活が送れるよう、個々の思いに寄り添いながらかかわったことで、好きな遊びを見つけて遊ぶ姿が見られるようになった。また、友達にも興味を持つようになってきたため、保育教諭が仲介に入り、子ども同士のやりとりを温かく見守ってきた。少しずつ一緒に遊ぶ事が心地よくなってきているようだ。 「自分で」の気持ちを大事にし、励ましたり、やり方を伝えたりする事で、身の回りの事に興味を持って自分で取り組むようになってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1歳児の頃の様々な芽生えが安心感のある環境の中で育まれている。 子ども達の好きな遊びやいろいろな物への興味関心を温かく見守り、「自分でやりたい」の気持ちを尊重している。 	A
2 歳 児	<p>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して生活を送る中で、身支度や遊び等保育教諭や友達と一緒にやってみようとする。 保育教諭や友達とのかかわりの中で、一緒に過ごしたり遊んだりする心地よさや楽しさを感じる。 好きな遊びを見つけて伸び伸びと自分なりに楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で出来る事が楽しくなるように一緒にやっていく中でたくさん褒め、段階を設けて進めていくようにした。着替えや朝帰りの支度を自分からしようとしたり、自信をもってできたりする事が増えてきた。 友達のやっている事に興味を持ち、一緒に遊びたい気持ちが強くなっていった。友達の真似をしたりかかわりを持ったりして遊ぶ時間も増えた。環境を整え、保育教諭も一緒に遊ぶ事で夢中になって遊ぶ時間や友達や保育教諭とかかわる事も増えていった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達一人一人の主体性を認め、生活習慣を楽しく身に付けられる環境ができています。 保育教諭や友達と遊ぶ中で、友達関係を広げ、一緒に遊ぶ楽しさを体験している。 	A

満 3 歳 児	<p>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友だちと関わり合いながら安心感をもって生活をする。 ・身近な身の回りのことを自分でやってみようとする。 ・好きな遊びや安心できる場所を見つけて、保育教諭や友だちとのびのび楽しんで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時期が子どもによって違うため、その都度において丁寧な生活習慣の流れを伝えていった。個々によって様子も違うため、それぞれの良さを褒めていきながら遊び、身の回りの始末においても自分からやってみようと思えるような言葉がけをした。 ・また、一緒に遊びや活動を行う中で、楽しさを知るきっかけを作ったり友達とのかかわりを持つきっかけとなるような子どもとの信頼関係を築くように心掛けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの特性を把握し、個性と捉えて褒めながらポジティブに保育を進めている。 ・身支度等、子ども自身がやってみようと思えるように配慮している 	A
3 歳 児	<p>○保育教諭や友達と一緒に楽しく園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友達とのかかわりの中で自由な表現を楽しみ豊かな感性を育む ・集団生活に必要な約束や習慣を知り自分で行おうとする(挨拶、身支度、食事、排泄、手洗い、着替え等) ・好きな遊びや安心できる場所を見つけて楽しく遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友達とのかかわりの中で信頼関係を築き、安心して遊べるようになった。 ・自分の気持ちを伝えたり相手にも思いがあることに気付き言葉での表現もできるようになった。 ・身支度や着替え排泄等、個人差が大きかった為、保育教諭と一緒に進め、丁寧にかかわり援助することで少しずつ自分で行なえるようになり習慣となっていった。また、褒めることで自信に繋がるようにした。 ・安心できる居場所を作れるよう、2クラスを開放してコーナーを作り、好きな遊びを見つけ自由に表現して楽しめるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭との信頼関係の中で基本的な生活習慣が丁寧に定着できたことが安定に繋がっている。 ・2クラスを開放してコーナーを作ったことでお気に入りの場所で好きな遊びができた。 	A
4 歳 児	<p>○友達と夢中になって遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びや生活の中で、保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを味わう。 ・身近な自然に興味を持ったり、気付いたり、考えたりしながら遊びや生活に取り入れる。 ・園生活の中で自分の思いを言葉や態度で伝えたり、相手の思いに気付いたりして友達との関わりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びの中で、友達とイメージを共有しながら遊ぶことでかかわる機会が増え、交友関係が広がっていった。少しずつ、自分の気持ちを言葉にして伝える大切さに気付き、発信しようとする姿が見られた。また、かかわりの中で起こるトラブルの時にも、気持ちを伝え合いながら解決しようとしていた。 ・野菜の栽培、アリの観察、幼虫の飼育、散歩等を通して、身近な生き物や自然に関心を持っていた。科学絵本や図鑑を見ることで、興味が広がっていた。 ・保育教諭の話を理解して、保護者に伝えられるか「ミッション」にし、子ども達がゲーム感覚で楽しく取り組めるようにしてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションを取り入れることによってゲーム感覚で遊びながら話をよく聞き、理解する力を身に付けることができた。 ・身近な生き物や自然など外への興味関心が広がるように子どもの気付きに合わせて環境を整えた。 	A
5 歳 児	<p>○遊びを通して協同性を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合い、協力したり、工夫したりして、最後までやり遂げようとする気持ちを持つ。 ・自分達で遊びや生活を主体的に進め、就学に向けて自覚や自信を持つ。 ・自分の気持ちを表現しながら、友達の気持ちを分かろうとし、思いやりの気持ちを持つ。 ・自然に対する興味を深め、好奇心や探求心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的に向かって遊びを楽しみ、皆で考えを出し合ったり、話し合いの時間を設ける事で、友達の考えに気づき、興味関心がより広がっていった。 ・日々の生活を通して、子ども達自身の気づきや変化の様子を捉え、褒めたり、その姿を周りに共有したりする事で子ども達の意欲に繋がり、自信がついてきた。 ・遊びや生活を通して、自分の思いを優先しトラブルになることが多かった為、その都度友達の気持ちに気づけるよう配慮した事で、次第に友達の気持ちに目を向けてかかわろうとする姿が見られるようになった。 ・飼育当番を通して、世話の仕方を覚えながら動物の生命に対する思いやりの気持ちを持てるようになった。また、草花や季節の変化を取り入れた遊びや生活を展開してきた事で、興味関心が育った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的に向かって協働して遊びを作っていく指導を行った。 ・子どもを褒めて認めることで意欲や自信に繋がった。 ・友達の意見を聞き、気持ちや考えに気付くことで共に充実した日々を送ることができていた。 	A

2 各指導部等にかかわること

評価項目（各指導部等のねらい・取組等）		自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
1 安全・ 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な場面を想定した避難訓練を定期的実施し、子どもの安全確認に努める。 ○地域、家庭との保健に関する情報交換を綿密に行い、流行性の疾病情報の開示を随時行う。 ○食物アレルギー等、子ども一人一人の健康に配慮した保健指導を行う。 ○定期的な遊具の点検と園庭の安全管理を行う。 ○コロナウイルスの感染対策を行い、感染予防に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、非常食訓練や洪水の訓練を実施したことで普段の訓練とはまた違った緊張感の中、行なうことが出来た。 ・コロナウイルスの感染状況によって、行事の日時等の内容をその都度見直し、その時の状況を踏まえながら考えていくようにした。 ・アレルギー対応においては、給食業者や保護者との連絡を密にとり、個々に配慮をしていった。 ・遊具の点検を定期的に行い、修理をするようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地震だけでなく非常食訓練や洪水の際の訓練を実施するなど状況の変化を考えて行っていた。 ・コロナウイルスの感染対策を常に見直す努力をしている。また、コロナウイルスの状況に対応し、行事の変更や保護者への欠席状況の開示など細やかな対応ができています。 	A
2 運営組織	<ul style="list-style-type: none"> ○迅速な報告・正確な連絡・簡潔な相談を適宜行う。 ・デイリーメモに、朝礼、夕礼の内容記入欄を作り、全員に周知していく。 ○幼児教育は「組織的・計画的に」を合言葉に、円滑な運営に努める。 ○教職員相互の信頼関係を大切にしながら、チーム保育を意識し、常勤非常勤を問わず情報共有することで、相互理解に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝礼、夕礼を必ず行っている。デイリーメモを利用し、参加できない職員にも連絡が行き届くようにした。今後はメモではなく、ICTを取り入れていつでも情報の確認ができることを検討している。 ・また、インシデントも必ず報告し、職員全体で共有して再発防止に努めている。 ・引き続きコロナ禍であったが、その中でも今できることを模索し、職員間で相談しながらチーム保育を進めることができた。 ・職員会議の資料等を非常勤にも配布し、情報共有できるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的、計画的な運営の前提となる情報共有の工夫ができています。また、今後早めにICTを取り入れて迅速な情報共有に努めようという高い意識が見られる。 ・コロナ禍でもできることを考え、チームとこはとして硬直した組織にならず、円滑に運営ができています。 	A
3 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ○とこは幼稚園重点目標「自ら周りの環境に関わろうとする子」を目指して、園内研修に取り組む。記録を実践に活かし、子どもの育ちに必要な経験、言葉かけ、保育教諭のかかわりについて考える。 ○ECEQ 公開保育を通して、保育の質の向上を目指す。 ○合同研修会や外部研修会などに意欲的に参加し、スキルアップを図るとともに、保育の質の向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の園内研修では、それぞれが自分の考えを示しやすいよう、また全体が向かうべき方向性が見やすいように紙ベースで見える化する。職員だけでなく保護者にも子どもの育ちについて一緒に考えてもらうきっかけとなるようにエントランスに研修でのまとめを掲示していった。 ・ECEQ で他園の先生方の意見を聞いたり考えを共有出来たりしたことで子どもの見方、保育についての意識を「チームとこは」として高められた。また、そこで終わらず次につながる課題も見つめられたことで、やってよかったと思える研修会となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修、ECEQ を行い、教職員の技能・資質の向上に努めている。特にECEQ では自分達では気付かない園の良さや、改善点を再確認し、今後の更なる保育の質の向上の為に努力を続けている。 ・開かれた保育により、自ら求めて変わっていきこうというチャレンジングな姿勢が見られる。 	A

<p>4 家庭・地域との連携</p>	<p>○各家庭に保育の取り組みをわかりやすく伝え、保護者の声にも耳を傾け、信頼関係を築いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 園行事に関して、どのような意義・意図があるのかを行事までの日常の子どもたちの育ちを伝えながら保護者理解に繋げられるように工夫する。 気になる子に対して、担任・特別支援コーディネーターを中心に面談を行ったり、相談機関を紹介するなど子どもにとって過ごしやすい環境を保護者と一緒に考える。 <p>○「とことこクラブ」を開催し、未就園児が親子で楽しいひと時を味わえるよう、各回工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、園行事の延期や中止があった。 保護者が園に来られない代替案を検討する中、保護者アンケートにて園からの情報がもう少し欲しいとの声があった。その事を受け2月に動画配信アプリ「てのりの」を取り入れた。0～5歳児まで、普段の生活の様子や行事等、保護者が見られない姿を伝えることができた。 運動会や生活発表会の前には、カラー版の学年だよりを発行し、それまでの取り組みを伝え、保護者理解を深めることができた。 気になる子の現状を把握し、園での様子を保護者に丁寧に伝え、園と保護者と一緒によりよい手立てを考えるようにすると共に相談機関を紹介した。 とことこクラブは、人数制限、事前予約性として予定通りに開催ができた日が多く、幼稚園を知っていただくと共に保護者同士が交流する場となった。また、参加した方が入園を決めるきっかけとなった。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で制限がある中でも前年度からの課題(例えば保護者が園に来られない代替案)に実直に向き合い、できるところから改善することができている。てのりのの導入は保護者に子ども達の姿を見せる良い手立てとなった。今後、配信の頻度や時間など保護者にアンケートを取る等していくとよい。 気になる子へは保護者と手を取り合って引き続き手厚くサポートしていきたい。 	<p>A</p>
<p>5 常葉大学内連携</p>	<p>○たちばな幼稚園との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両園合同研修会を行い、情報交換をしながら、子ども理解を深める。 <p>○橘小学校との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主にスタートカリキュラム、アプローチプログラムについて幼小で情報交換、研修、学校訪問、交流等をし、理解を深める。 <p>○中学、高校、短期大学部、大学の実習生受け入れやパイプ強化。</p> <p>○大学、高校等での授業を行い、育成に携わる。</p> <p>○短期大学部との情報交換。</p> <p>○他学校施設の活用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間で4回の両園研を計画し、今年度もコロナ禍の保育について情報共有していった。毎回の研修の中で課題や改善点をあげ、それを園に持ち帰り自分達の園に合った方法で取り組めるところから行っていく等工夫をしていった。 4月に橘小のスタートカリキュラムに参加させていただくことで、幼小お互いの連携、理解を深めることが出来た。 実習では学校毎時期等相談しながら可能な限り受け入れをしていった。 常葉高校にて連携講座等授業を行ったり、短期大学部で作成するテキストへの資料提供等し、連携と養成に携わっている。 コロナ禍で、他学校とお互いに行き来が難しいところがあった。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で計画通り実現できないこともあったができる限り研修等を行い、情報共有に努めた。 たちばな幼稚園、橘小学校と連携、理解を深めている。今後も短大、大学の学生と授業等を通してかかわれる機会を作ってほしい。 	<p>B</p>

*A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取組が不十分である